

村立幼稚園再編に向けた対応方針（案）に対する意見交換会

日 時	令和 3 年 4 月 27 日（火）午前 10 時から午前 11 時 45 分
場 所	石神コミュニティセンター（多目的ホール）
出席者	村長，副村長，教育長，福祉部長，子育て支援課長
参加者	43 名 *対象地区（学区）：石神・村松・白方

○ 村長挨拶 ○

今日は地域の方々が多くいらしているが、初めてこのテーマについてお聞きになる方もいると思う。

昨年、村では「石神幼稚園、舟石川幼稚園、須和間幼稚園を村松幼稚園へ統合する」という幼稚園の再編の方針を出ささせていただいた。方針が突然決まったということで、不安や懸念を抱かれる方も多く、その直後には在園児の保護者や未就園児の保護者など、様々な方々からご意見があった。（令和 2 年）10 月 9 日に私自身が東海文化センターで説明を行ったが、その際も厳しいご意見は多々いただいた。

意見はいただいているが、村としては（村立幼稚園を）再編するという方向で進んでおり、村松幼稚園に統合するにあたっての交通や教育内容など、様々な課題について、昨年 11 月頃からワーキング・チームを作り検討してきた。これまでのアンケートやいろいろな機会でもいただいたご意見を踏まえ、これから村松幼稚園の統合にあたってどういう対応をしていくかということについて、今回「対応方針（案）」という形でまとめ、途中経過の段階で皆様にまずご説明し、意見交換をするという形をとった。30 日には東海文化センターの大会議室でも開催することになっており、地域ごとに回数を分けて意見交換の場を設けている。これから説明する内容を聞いていただき、疑問やいろいろなご意見をいただけるかと思っている。意見交換会を 2 回開催した後、さらに皆様からのご意見をもう一度踏まえて、どういう対応ができるか整理をし、最終的な方針を決めたいと考えている。

幼稚園再編が決まってから、村としてはできるだけ皆さんのご意見を伺えるよう、いろいろな形を通して進めてきており、その中で今村が考えていることを今日は説明したいと思う。

本当に子どもの数が減っており、令和 2 年度は結局 1 年間で 232 名の出生者数となった。これは私もびっくりする数字で、「村長は何もしなかったのか」と言われるかもしれないが、ここまで急激に少子化の波が来るとは、正直私も想定していなかった。これまでは「今子育てしている世代」の方々向けに何とかしようと思っていたが、これからはその前、若い世代全体に対して様々な施策を講じていかなければ、この流れは止められないなど思っているため、政策の在り方も少し考えていきたい。

今日は、幼稚園再編とは直接関係ない説明が冒頭にある。須和間幼稚園の近くを新しい道路が通り、「この道路の事業化が決まったので須和間幼稚園が廃園になるのではないか」との懸念を抱いているご意見があった。実際その道路が決まったのはずっと前の話で直接は関係ないが、少しその話もさせていただく。

石神幼稚園については令和 7 年度までは存続し、令和 8 年度から（村松幼稚園に）統合ということで、まだ 5 年ほどはあるが、この間にどういうことができるのか引き続き村としてしっかり考えていきたいと思うので、皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

○ 水戸外環状道路事業内容説明 ○

<副村長> (説明概要)

- ・道路整備事業区間：国道 6 号から国道 245 号までの 6. 1 kmの区間
- ・平成 16 年に都市計画決定された県の事業
- ・須和間幼稚園の近くを通るように計画になっているが、幼稚園とはある程度の距離もあり、この道路整備のために幼稚園再編を進めるものではない

○ 「**村立幼稚園再編整備に向けた対応方針（案）**」説明 ○

<福祉部長> (資料に基づき説明)

○ 意見交換 ○

<参加者 A>

- 登降園時の交通手段は原則各家庭での送迎ということだが、送迎車両の利用条件について認められない条件はあるのか。
- 送迎車両の利用基準や乗降場所について、フレキシブルに検討してもらうことは可能か。

<福祉部長>

- 送迎車両の利用対象者については、今回の幼稚園再編に伴うということで、須和間幼稚園と舟石川幼稚園、石神幼稚園に通園されている園児を対象と考えている。
- 乗降場所についても、基本的には 1 か所とし、乗降時間を極力短くして園児の負担を減らす形で考えていきたい。

<村長>

- 私は最初、統合した場合には通園バスが必要だと思っていたが、意外にも保護者の方からは「園での子どもの様子を直接聞きたいから自分で送り届けたい」という声が結構多かった。東海村に住んでいて幼稚園を選んでいる方の、自分でお子さんを預けて、帰りに迎えに行くときは「今日一日、園での様子どうでしたか」と先生と話をしたいという気持ちを大事にする意味で原則各ご家庭での送迎という形にした。ただ、家に車が一台しかなくお父さんが通勤に使っている場合だと（お母さんは子どもを園へ）送っていけず、「今まで歩いて連れて行っていたのに送っていけない」という場合が出てくるので、そういう方にはバス（車両）を用意する。そういう意味で「原則ご自身（各家庭）」で、どうしても手段がない方や病気などの場合にはそれに代わる車両、バスのような大きいものでなく少し小さいものと考えている。あまり長時間の乗車も子どもたちがかわいそうなので、できるだけ短時間で安全に幼稚園に行けるようにとも考えてのことである。これは、これまでのアンケートや意見をいただいた中で気づいたことなので、より保護者の方々の意向に沿う形なのかなと理解している。

.....
<参加者 B>

- 石神幼稚園と色々な交流している我々高齢者クラブとしては、「石神幼稚園は石神小学校へいづれ入る」、「給食に今から慣れていた方がいい」という話を聞いていた。その話が急に変更になり、石神幼稚園が廃園となる基本的な考え方のところが見えない。

<村長>

○幼稚園再編について広報誌などでお知らせしていたが、直接地域の方々には説明をしていないというところでは申し訳ないと思っている。

幼稚園の再編については、昨年9月頃に方針を出している。その当時から再編に反対だという声は聞いていたし、議会でも請願が出たりして議論してきたが、これだけ子どもが減り、幼稚園のニーズが少なくなっている中では「再編やむなし」ということで、村としては決めている。その方針は今でも変わっていない。ただ、今も存続してほしいという声は聞いている。当初、石神幼稚園は園舎が古くなってきている中で、単純に建て替えというのはこれだけ園児数が減ってきている状況でその投資はできない、「残すのであれば石神小学校の中に」という案もあった。その案も検討したが、実際には石神小学校も児童数は減ってきているが、そこまで余裕教室があるわけではない。そこに幼稚園の部分を設けるとなると石神小学校の改築も必要になり、現実的には難しいということでそれも断念し、今回の再編へ向かっている。今、石神幼稚園は学区外からも入園を認めて、なんとか園児数を維持している。石神小学校と石神幼稚園で給食など、いろいろな連携を先行して行っているんで、その良いところは村松幼稚園でも取り入れようとしている。

.....
<参加者 C>

○保護者アンケートの結果を読んだが、賛成意見は数えるほどであった。村民は統合を望んでいない中で村は統合を押しつけようとしている。

○村は地域住民の意向を全く考えていない。敬老会についても、村が敬老会をなくした中で「自治会や地区社協で敬老会をやるならば応援します」といった内容の発言があるのかと思ったら、「何か新しいことやっても予算は出せない」と言われた。あとは、歴史と未来の交流館の建設についても、相当あった反対意見を一蹴し、村は作った。

○高齢者クラブでは年5回の幼稚園との交流を図っているが、今後石神からわざわざ村松幼稚園まで行って交流を図るといことは難しいだろうと話合っている。そういった考えを村の方針では出してもらえないと思う。益々子育てが難しい東海村、住みにくい街になっていくと私は感じている。

<村長>

○今のような話はいろいろな方から伺っている。村立幼稚園がこれだけ学区ごとにできたというのは村の特徴だと思うので、私だって残せるものは残したいと思っているが、子どもが減り、保育所ニーズが継続していく中でなかなか園児数が確保できないというのも現実。かといって、本当に園児数が減るまでずっと維持し、最後にどうしてもだめだったときに統合すればいい、というのも無責任だと思っている。本当に苦しい決断だが、5年先、10年先を見据えたときにどうしたらいいのか、今回石神幼稚園についても、令和7年度までは存続するが、さらにそれ以上延ばすというのは現実的に厳しい。幼稚園を学区ごとに残せないのは大変申し訳ないと思っているし、子どもがこれだけ減ってしまったというのは村長である私の責任だと痛感している。こうなってきた以上、小学校だけはこのようなことがないようにその先を見据えて児童を確保するために何ができるか考えていかなければならない。少なくとも小学校は幼稚園と保育所の両方の子が行くのでまだ可能性はあるが、就学前は幼稚園と保育所という2つ選択肢がある中で、幼稚園だけを増やすというのはなかなか難しい。皆さんの思いは分かるが、行政を運営していく中では現実を見据えて運営していかなければならない。ご批判はあるかと思うが、ご理解いただければと思う。

.....
<参加者 D>

- 園児数が減ってきて統合はやむを得ないというのは当たり前のことだと思うが、その中でいかに現状のサービ
スを低下させないかというのが、今回の意見交換会だと思う。
- 皆さんと同じように現状のまま幼稚園が残ることが良いと思うが、そうはいかない時代になってきている。
- 村松北区ではパトロール隊を組織して活動を行っている。村松幼稚園に多くの園児が集まるので、登降
園時の安全対策については、何らかの形で協力せざるを得ないと思っている。
- 地域の安全の輪について今後地元の関係者と協議をしながら、問題のないよう対策をしてもらいたいと思
った。

<福祉部長>

- 村松幼稚園への統合となり園児数も増えて、保護者の送迎車両も増えるという中で、地域からの協力の
ご意見に感謝する。村としても、駐車場や周辺の安全対策に対して、現状の駐車場と併せた新たな
駐車場の確保や村松幼稚園周辺の道路の通行のルール化など、安全対策を十分講じて通園のシステ
ムを作り上げていきたいと思っている。

.....
<参加者 E>

- 今回の（石神幼稚園存続を求める）請願の署名は、何件あったのか。また、それに対してどのような答
えをするのか。
- 子どもの数が少ないから統合は仕方がないということだが、行政として今までどのような少齢化対策を行っ
てきたのか。少子高齢化対策の一環として、若い人が集まるような施策を考えられたのではないか。
- 小学校の空き教室がないという話だが、石神幼稚園の園児はどのくらいの教室の数をを使うのか。石神小
学校が新築されたときと現在とでは児童数が全然違うのに、教室が足りないということはないと思う。小学
校は幼稚園に貸したくないのだろう。

<福祉部長>

- 現在、石神地区で署名が回っているということだが、まだ村のほうへ届いていないため件数については把握
していない。

<村長>

- 少子化対策について、これまでは保育所の待機児童解消を中心に行ってきた。保育所のニーズがずっとあり、
待機児童・入所待ちの解消のために、役場の隣に「けやきの杜保育所」を作り、民間だが小規模の
保育所も開所した。正直幼稚園はそんなに変わらないと思っていたが、気が付いたら幼稚園のニーズが減
っていた。ただ、幼稚園の園児数を確保する方策はなかなか難しい。保育所は施設が足りないのをそこを
増やせばよいが、幼稚園は園舎もあり、定員も確保されている。働いている方は幼稚園の預かり時間を
延ばしても間に合わないの、大半は保育所を望む。幼稚園の利用者が在家庭の方や短時間のパート
の方となると、幼稚園児を増やすための施策というのは難しい。圧倒的にニーズは保育所にあり、待機児
童の解消に向けて一生懸命やっていた中で、幼稚園の園児確保には具体的な対策は講じられなかった。
今後は、全体の子どもの数を増やしていくような、もっと大きな長期的な政策でしかカバーできないと思っ
ている。ご理解いただきたい。
- 石神幼稚園については、そもそも私が「小学校の中に幼稚園を入れられないか」という発想をした。ただ、
小学校も児童数が減っているが、村では小学校 1, 2 年生は 30 人学級という県の 35 人学級よりも少
ない少人数教育を行っている。この後、文科省としてもだんだん 1 クラス当たりの子どもの数を段々と減らし
ていくような傾向になると、結局教室は必要になる。幼稚園は 3 歳、4 歳、5 歳と 3 クラスは必要になる

し、ホールなど、その他の設備なども考えると今の石神幼稚園のあの規模はそのまま入らない。それなら 1 部屋、2 部屋で良いかという、それも中途半端になってしまう。そういう意味で、物理的に小学校に入れるのは難しいのかなと考える。私もできるのではと思い、検討はしてもらったが、結果として難しいということで断念した。

.....
<参加者 F>

- 的外れな質問かもしれないが、石神幼稚園を保育所にするということとはできないのか。保育所になれば、人は増えるのか。
- 石神幼稚園の園児数が減って問題が出てくると言っても、役場の隣には新たな建物を期限付きで建てるなど、だいぶ柔軟なことをやっている。なぜ石神幼稚園はなくなるのか。寝技でも何でも使って何とかならないのか。別の見方をすると、石神地区は見捨てられたと感じる。行政側に対して期待外れに感じている。
- 地元が心配しているのは、小学校や幼稚園で地域と壁ができることで、地域コミュニティの質が下がること。地域コミュニティの質をキープしていきたい。質を高めることは行政側の仕事ではないかと思う。
- 統合に向けてやらなければならないことを一生懸命行政で考えてくれているのは分かるが、地域からは不満が出ていて、石神地区の自治会から各家庭へ、反対の意思表示をしようということで署名運動をやっている。それと今回の説明会の内容がマッチしていない。

<村長>

- 幼稚園と保育所の根本的な一番大きな違いは「給食」。朝早くから夜遅くまで 1 日「預ける」というのが保育所であり、必ずお昼に給食を出す。村は自園調理方式で、調理室で給食を作っている。石神幼稚園を建て替えて保育所にする場合、あくまでも保育所なので、入れる人は就労している人が原則で、幼稚園に預けている在家庭で働いていない保護者は預けられない。いずれにしても石神地区にはこども園などもあり、選択肢はあるし、そもそも幼稚園と保育所というのは全然違うニーズなので、単純に保育所にするということはなかなかできない。(石神幼稚園を保育所にして石神幼稚園の子どもを残すといった対応の難しさは) 私個人の思いからすると「法律の壁」だと思って欲しい。皆さんの思いは分かるし、こんなことができればという思いがあるのだろうが、法律上、決められたルールがある中では限界があり、それを超えて村が勝手にやることはできない。
- 地域との連携では、小学校はコミュニティスクールが出来ているので、これからちゃんと連携は進んでいく。幼稚園と小学校は学区制を引いているので、学区の子がそのまま小学校に入れば連携がとりやすいが、地域には保育所に預けている家庭もいる。例えば、石神小学校区の 4 歳児の数は 36 人だが、今年石神幼稚園に入園した子は 10 人しかいない。という事はあとの 26 人は保育所に預けていることになる。保育所の場合、私立も含めたどこかの保育所に行っているが、住んでいるのはこの地域なので、本来は幼稚園も保育所も関係なくここに住んでいる就学前のお子さんを対象にした連携が必要。保育所の子どもも含めた連携の視点もこれからは必要になってくる。幼稚園がなくなってもそういったものをなんとか新しく作っていくので、地域とのつながり、その後の小学校とのつながりなども可能になると思う。
- 「この再編はどうか？」という意見交換ではなく、もう再編するという方針は決めているので、あとは統合にあたり出来るだけ影響がでないよう、お子さんを安全に村松幼稚園でお預かりできるようにするための意見を求めている状況である。

<参加者 G>

- どのくらいの園児数がいれば、幼稚園を存続できるのか。

<部長>

- 現在、村が考える教育上望ましい集団生活、集団活動ができる環境に関しては、1学級あたり10名以上で、学年が2学級とした場合、園児数は60名以上を基準としている。

<参加者 H>

- 去年の9月下旬に役場からいきなり、令和7年度に石神幼稚園が廃園となる事が決定したと一方的に説明された。在園児保護者にも地域住民にも一切の説明・協議もなく、一方的に通知され、保護者主導で意見書を提出したが、役場からは何の返答もない状況だった。石神小学校との幼小連携を推進しておきながら廃止決定という矛盾に私たちが納得いく説明もない。
- 地域に密着しているからこそできる石神幼稚園の魅力的な特色を今一度見直し、石神幼稚園の存続を強く希望する。
- 石神幼稚園の主な特色としては、①週に4回の石神小学校に移動しての給食（お友達と食べることで好き嫌いが減り、何より就学前に小学校に行って給食を食べることで入学後給食にすぐに慣れる）、②地域の方とのふれあい（「祖父母と遊ぼう」、「繭玉づくり」など、村松幼稚園でこれらの行事を行ったとしても石神の地域の高齢者の方がわざわざ出向いて参加してくれるとは思えない）、③自然の中での散歩（石神城址公園や近くの田んぼや季節を感じながら足腰を鍛えることができるが、村松幼稚園でそれが出来るのか）、④年中と年長での年に1回の山登り（少人数ならではの行事ではないか）、⑤年少から年長がみんなで仲良く遊んだりできる（年上の子は、下の子をよく面倒を見てくれており、少人数ならではだと思う）、⑥石神小学校の英語の先生による英語でのゲームや歌（小さいうちから英語に触れることで小学校の学びもスムーズにいく）⑦石神小学校の持久走大会への参加（早くから学校行事に慣れることで、スムーズに学校生活を送れるようになる）、⑧朝8時30分から夕方6時までの預かり保育（共働きの方も預けられるのでは）。
- 給食が出ることで幼稚園に預けてみようかなと思う方もいると思う。人数が少ないからといって、廃止ではなく、人数を増やす努力をしてもらいたい。村松幼稚園に通うとなると、石神幼稚園で出来ていた色々な魅力的な保育をすることが出来なくなると思う。
- 地域の自治会長の協力により存続の署名をお願いしたところ、1,084件の署名が集まった。村長をはじめ、子育て支援課に今一度、地域の声を聞いてもらいたい。署名はまだ伸びると思う。

<村長>

- 署名が1,084件というのは初めて聞いたが、それだけ皆さんの存続に対する思いが強いのだと改めて認識した。石神幼稚園の良さは、私も年1回ではあるが幼稚園訪問をしている。地域の方や学校との連携という現場はなかなか見る機会はないが、着実に継続されているのだろうと思う。幼小連携や地域の連携のあり方については、統合までの間に何が出来るのかしっかり考えていきたいと思っている。「再考して欲しい」という強い思いを受け、なんとか残せるのであれば残したいと思ったが、今の時点では難しいと思っている。子どもが減ったこと、園児数がなかなか伸びないことだけを理由にしていると言われてしまうが、行政とすれば公共施設を運営していくという運営の方の考え方もある。幼稚園教育は非常に大切で、子どものことを第一に考えているのは間違いないが、そのためにいくらでも建物を新しくして、どんどんお金を投入するのは難しい。子育てを大事にするならそれくらいやれというお気持ちかもしれないが、村行政トータルとして考えた

場合に、そこまで石神幼稚園だけ特別に新たな措置をするということは難しいと思っている。東海村が、子どもの数が一定程度生まれてきて人口も減らない、とあぐらをかいていたというところでは反省している。具体的な施策としてはまだ示すことはできないが、これを教訓としてしっかり子育て支援をやっていききたい。今後、統廃合のようなことが東海村で起きないようにしっかり考えてやっていきたいと思っている。署名が後程提出されるということで、お気持ちは受け止めたいと思うが、今の時点ではなかなかそこについてはお答えできない。申し訳ない。

.....
<参加者 I>

- 幼小連携のモデルケースとして石神幼稚園のやり方を研究し、石神幼稚園の幼小連携のスタイルをより拡大して新たな施策を考え、法律に基づいて縛られている部分についても、新たに法律が改正されるまでの動きとしてやってみてはどうか。

<村長>

- 幼小連携のやり方については、少人数ならでのやり方はこれまでも実践してきており、その可能性はあると思う。ただ、それをやる時に、園舎がここになければならない。そうすると結局園舎を建て替えて残すという大きな判断が必要になる。中身と一緒に施設も必要になってくる。ここに新しく園舎を建て直してまで本当にこの先ずっと続けるのか、建物を建てて、60年ずっと続けるのかと。先程、けやきの杜保育所が時限と言われたが、子どもがいずれ減っていくのは分かっているので10年リースで作っている。結局10年後は保育所ニーズだって維持できるかわからないと思っている。ましてや新たに公立幼稚園を1つ改築するとなると、その先まで存続できるという事がある程度見えてこないかと踏み切れない。幼小連携を、園舎がここになくてもどうやって実現できるかということを目指したいと思っている。中身はいくらでも議論したいが、中身の議論と一緒に施設もついてきてしまうので、そこはなかなか決断できないというところではご理解いただきたい。

.....
<参加者 J>

- 各幼稚園の充足率があるが、幼稚園の先生の目が届く人数はどのくらいなのか。それによって、扱える園児の数が決まると思う。先生が見られる子どもの人数は10人か15人くらいかと思う。そうすると園の数というのは、変わっていくのではないか。
- 小学校もだんだんクラスの人数を減らしていると思うが、子どもの数が減っているのと、先生が見ることのできる範囲が昔と違ってきているのかと思う。統合後、村松幼稚園で園児数が増えた場合どのような対策を取るのか。

<福祉部長>

- 学級の園児数の基準について、国の基準では幼稚園の1学級当たりの幼児数は35人となっているが、村では現在、3歳児は16人以下、4・5歳児は30人未満の学級編成をしている。

<村長>

- 園児数が増えた場合ということでは、今の状況だと実際に子どもの数がV字回復して増えたとしても幼稚園のキャパの問題が生じるまでにはもうしばらくかかると思う。一方で、統合された村松幼稚園もいつまでもあの施設がもつわけではなく、いずれは改築が必要になる。統合された幼稚園は、多分幼稚園として残ると思うので、その改築の際にもし園児数が増えているとすれば、それを見据えた改築にはなる。しかし、園児が増えたからといってまた地域にもう一回幼稚園を作るということには多分ならない。その時の園児数に応じて、また将来推計を見越した上でどこかで改築になると思う。ただ、今の状況を分析してみると、子

もの数が減っているのはお母さんの数が減っているからであり、お母さんの数が増えないと、子どもはそう増えていかないという運動はしている。そうすると若者対策をしっかりと行い、若い世代のうちから東海村に定住してもらうようなことをやっていかないと、子どもの数が増えていかない。その取り組みは始まってから効果が出るまでにしばらくかかるので、園児数がV字で回復するにはもう少し時間が必要かと見込んでいる。

.....
<参加者 K>

○村の人口と子どもの推移が今後どうなるか予測はされているのか。

<村長（回答）>

○子どもの将来推計は出していない。村の人口が今、38,000人と言われており、2030年に36,000人を維持したいと考えている。36,000人を維持するためには毎年お子さんが300人生まれて、さらに毎年転入増で100人（訂正：50人）人口が増えないと36,000人はキープできない。国はもっと厳しい推計になっているが、村では施策で減り方を抑えようとしている。それが昨年度（出生数が）230人まで減ってしまったので、この状態を下げまいとしたとしても、2030年に36,000人を維持するのも厳しいというのが現実。

.....
<参加者 L>

○公立幼稚園のニーズがどんどん減るのは、私立幼稚園に魅力があり、そちらに流れているからではないか。私立の幼稚園などに対して村からどのくらい補助を出しているのか。それだけ魅力があり、私立幼稚園に流れてしまうのであれば、公立幼稚園も私立幼稚園並みのサービスをすれば維持できるのではないか。そういった意味で、我々も石神地区の幼稚園を存続してもらいたいという思いで活動してきた。保護者の方から話を聞くと、どちらに行っても値段が変わらないからサービスの良いほうに行くのだという話を聞いている。

○もう少し教育の質を良くしてもらいたいという話も聞こえているので、1か所に統合するのではなく、それぞれの特徴のある地域（の幼稚園）を残してもらいたい。

○石神幼稚園の魅力ある特色を活かした環境を見直し、モデル幼稚園としてぜひとも存続してもらいたいという請願書を、この意見交換会が終わった後に提出させていただく。

<福祉部長>

○村から私立幼稚園へは、300万程度補助している。私立幼稚園に関しては、園児向けのバイオリンやスポーツなど、村では取り組むことが難しいオプション、当然オプションなので別料金がとられているのだと思うが、そういったことに取り組んでいるということは聞いている。また、公立幼稚園の魅力の向上という点に関しては、今後の村松幼稚園への統合に向けて幼稚園の先生方と、今後の新たな村松幼稚園での取り組み、教育目標や教育方針等について現在作り上げていっているところであり、公立幼稚園が魅力ある幼稚園となるよう努力していきたい。

以上